

“〇活”のススめ

放送研修センターに勤務していた去年、マスコミを目指す大学生セミナーの講師を担当した。そのときの教え子が新聞社に内定し、先日、クラスの仲間が集まり就活報告会を兼ねたお祝いの会を開いた。皆が心から祝福し、当人はこれから就活を始める後輩たちに貴重な体験を話して激励した。心温まるとてもすばらしい会であった。

就職活動を“就活”と縮めて言うようになったのは2000年前後といわれる。いわゆる“就職氷河期”の真っただ中だ。内定が出ず就職活動の長期化がニュースなどで頻繁に報道されるようになる中で、短縮形の“就活”が生まれたのだろう。最近はいくぶん状況が改善したとはいえ、たいへんなことに変わりはない。しかし、現実の厳しさとは裏腹に、私は“就活”に明るく軽やかな語感を持つ。おそらく冒頭で紹介した教え子たちの、同じ目標に向かって連帯して前向きに頑張る姿を見てきたからだと思う。そこに“部活”を連想してしまうのだ。

“就活”の登場以降、“〇活”ということばが世に溢れている。「就活の前に“免活”」。これは、地下鉄の車内広告に見つけた自動車教習所のキャッチコピー。就活を終えたら、次は“恋活”“婚活”だろうか。「お見合いパーティー」より「婚活パーティー」と言うほうが、重々しさも薄れ、参加のハード

ルが下がるのかもしれない。結婚したら“妊活”，子どもが生まれたら“保活”。いずれも、子どもができない夫婦や待機児童の親にとっては深刻な問題であるが、悲観的にならず、周りのサポートも含め前向きに取り組む様子が思い浮かぶ。前向きといえば、究極は“終活”である。忌み嫌うべきものとされた“死”さえも肯定的に受け入れ、いわば“気持ちよく”死を迎えるための準備活動というのだから。

“〇活”の氾濫は止まるところを知らない。ネットを検索してみると、文字を見ただけでは意味が分からないものも多い。

ここで問題です。次のことばの意味は何でしょう？ ①温活、②休活、③菌活、④懸活、⑤納活、⑥涙活、⑦冷活、⑧アゲ活、⑨だし活、⑩ベジ活（恐縮ですが正解はご自身でお調べください）。

流行に便乗して、自分も何か“〇活”を始めようか、などと考えていたら、車内広告のこんなワードが目にとまった。“燃活”。たき火を楽しむ活動ではない。脂肪を燃焼させる活動である。これまでダイエットにはことごとく失敗してきた私だが、“燃活”すれば、痩せられそうな気がしてきた。いや、たぶん気のせい。だが、このまま肥大しつづければ、しまいには“独活の大木”と言われてしまう。 中尾晃一郎（なかお こういちろう）